



# イーデン・ウイルス「東西インド旅行史」

## —英語で書かれた最初の日本紹介書—

短期大学部 教授 河合忠信

我が国に初めてやってきた西欧人は1542年に種子島に漂着したポルトガル人だが、日本国のことを西欧の人々に紹介した最初の人物はマルコ・ポーロであることは衆知のとおりである。彼のものした「東方見聞録」によって当時の西欧の人々にはるか東方に黄金の花がさく日本国の存在を知ったのである。15世紀、活字印刷術の発明によって彼の書も刊行されたがそれらはドイツ語版、ラテン語版であり英語版が出版されたのは16世紀に入ってからであった。1579年、ロンドンのラルフ・ニューベリによって刊行されたのが最初である。ところが本書より二年前、1577年に既に英文による日本紹介文がアジアに関する報告の一部として刊行されていた。それがこのイーデンとウイルスによる「東西インド旅行史」で、タイトルは下記のとおりである。

THE/ History of Trauayle/ in the/ West and East Indies, and other/ countreys lying eyther way,/ towards the fruiteful and ryche/ Moluccaes./ As/ Moscouia, Persia, Arabia, Syria, Ægypte,/ Ethiopia, Guinea, China in Cathayo, and/ Giapan: With a discourse of/ the Northwest pas-/sagr. /// In the hande of our Lorde be all the corners of/ the earth. Psal. 94. /// Gathered in parte, and done into Englyshe by/ Richarde Eden. /// Newly set in order, augmented, and finished/ by Richarde Willes. /// Imprinted at London/ by Richarde Iugge./ 1577. / Cum Priuilegio. 四折本。縦 19.7cm 横 14.2cm。館蔵本は現代イギリスを代表する著名な製本家シドルトンによる茶褐色のカーフ装丁。表・裏表紙に旧蔵者の紋章の空押し有り、なお同じ製本家による収蔵ケースに収められている。

まず本書の構成だが、標題紙につづいてウ

イルスによるベドホード伯爵夫人への書簡形式の献呈辞 "To the ryght noble and excellent Lady, the Lady Bright, Countesse of Bedforde, my singuler good Lady and Mystresse." が第二葉表より第六葉裏まで、次いで同じ著者による読者宛の序文 "R. Willes Preface vnto the Reader, wherein is set downe a general summe as it were of the whole works." が第七葉表から第九葉裏の一部まで、なおこの序文から本文は柱 (Headline) 及び小見出しを除きすべて古体の英文活字で印刷されている。本文は第十葉表より始まり、第十一葉より最後まで各葉表右上に葉数番号 (1-466) が印刷されている。本文は次の六部より成る。第一部はイーデンによる「殉教者ペトロの数十年及びオビエドの「西インド諸島通史」の抄訳」(Decades of Peter Martyr and "General History of the West Indies" by G. H. de Oviedo y Valdes.) 第二部はウイルスによるインドに至る西北航路の探検を志したフロビッシャーの航海についての記録でワーウイク伯爵夫人 (Countesse Warwyke) 宛の書簡形式をとっている。第三部も同じくウイルスの手によるもので「中国」と「日本」の二つの章より成り、「中国」の章は1576年2月21日に書かれ宮廷の女官エリザベス・モリシン (Good Mystress Madame Elizabeth Morisyn) に宛てられているが、この章は数年間中国で捕虜として過ごしたガレオット・ペレラ (Galeotto Perera) のイタリア語による物語を翻訳したものである。「日本」の章は "Of the Island Giapan and other little Isles in the East Ocean by the way from Cathayo to the Moluccas." の標題の下に、ウイルス自ら書き下ろしたものと高名な耶蘇会士で日本で布教活動を続けていたルイス・フロイスの書簡の翻訳から成っている。第四

部は "Voyages of Persia travelled by the merchants of London of the Company and fellowship of Moscovia in the year 1561, 1567 and 1568"、第五部は "Two voyages made out of England into Guinea in Affricke at the charges of certain merchant adventurers of the City of London in the year of our Lord 1533"、第六部は "The Navigation and Voyages of Lewes Ver-tomanns, gentleman of the City of Rome 1503"、で第四部から最後の第六部までは全てイーデンの手による記事であり、最後の部は彼がラテン語より英訳した作品である。

ところで日本に関する記事は第251葉裏よりウイルスによる日本記がはじまり、まず日本の位置、地誌・気候・国民性及び風習について述べ、次いで国家組織・教育に及んでいる。内容の一部を紹介すれば、日本への旅行は内乱、海賊また船の難破も多く非常な危険を伴うこと、この島国には砂糖・バター・卵・蜂蜜等がなく塩のかわりに barley bran (麦の糠、たぶん味噌・醤油のこと) を使用していると述べ、鳥獣類は絶対に食用とせず専ら魚類と野菜を食べるので健康で長寿であると言っている。また国民性にふれ何よりも名誉を重んじそのため殺人を犯す場合も多く、また一般市民の生活は貧しくそのため自分の子供を殺すことさえあるが誰も自分の貧しさを恥じることがないとも述べている。国家組織については法皇、天皇、将軍の存在にふれ、教育施設として主な仏教寺院の勸学院を大学とし、都に在る有名な大学及びその他に高野山・根来・近江のきべ・比叡山の大学をあげている。だがこれらの記事はこの章の最後で述べているようにマッフェイ (Maffei, P.)

の「日本国について (De Rebus Japonicis)」からの抄訳のようである。次いで第253葉裏の上部より第260葉表の半ば迄がフロイス書簡 (都 1565年 2月19日付) の翻訳が占めている。なおかかる興味ある日本関係記事のほかには本書には当時のイギリスの皇帝エドワード五世から東方諸国 (日本も含めて) の諸王に対し友好・通商交渉を求めた書簡の写しが含まれている。この書簡は1553年ウイロビー卿 (Willoughby, H.) が行った東方への航海に携えたものであった。勿論その当時この書簡は日本に届かなかつたけれどもイギリスから日本国宛の最初の書簡ともいえる。

著者イーデン (Eden, Richard, 1521-1576) は翻訳家として知られ、ケンブリッジ大学で学び1552年セシル卿の私設秘書を勤めた。1553年ミュンスター (Münster) の「宇宙誌」 (Cosmography) の翻訳出版を最初に数多くの翻訳があり、本書は彼の翻訳を主体にそれにウイルスが自らの翻訳を加えて彼の死後1577年刊行したものである。ただし日本関係の記事は上述のとおりウイルスの手になるものである。

「日本書誌」 (Bibliotheca Japonica) で著者コルデイエ (Cordier, H.) も記しているように本書は稀観の書で本邦では三部の存在が知られる。なお1928年本書の「日本」の項のみのリプリント、"England and Japan, The First Known Account of Japan in English extracted from the History of Travayle 1577" と題し、当時の大阪駐在領事 M. Paske-Smith 氏の序文を附して神戸の J. L. Thompson & Co. より刊行されている。

(稀観書室兼務 書誌学専攻)

